

2026.7.7

pT3, pT4 大腸癌の病理診断均霑化（ELI を含めて）議事録

日時：2026 年 7 月 2 日（木）9：00～10:00

場所：広島コンベンションホール（対面会議 および zoom）

主な参加者：小嶋基寛、落合淳志、山本周、牛久哲男、羽賀敏博、中野薫、新井富生、藤吉健司、佐藤直実、市川一仁、杉本亮、高松学、岸本光夫、村上圭吾、市原真、湯澤明夏、大石琢磨、下田将之、根本哲生、塩見達志、谷優佑、白水雄、藤田文彦、佐村博範、金城達也、卸川智文、幸迫正憲、石川聖、新實優卓、宮沢善夫、津山 翔、岡田一秀、松浦裕人、広池哲平、森永友紀子、棚橋明央、加藤健（敬称略）

・研究概要

- ① Pre-analytic phase と疫学のアンケート
- ② 診断一致率のアンケート
- ③ 所見一致率のアンケート
- ④ Delphi 法用の所見設定+voting
- ⑤ 新たな診断基準の診断一致率の検証
- ⑥ 新たな診断基準の予後分別能の検証

1. 事務局からの連絡

研究計画書の改訂内容および各施設における倫理審査の進捗状況について報告した。各施設において引き続き倫理審査手続きを進め、審査結果通知書が揃い次第、研究計画書の改定を行う旨を説明した。

2. 研究方法の詳細説明

①Pre-analytic phase と疫学に関するアンケート調査実施報告と締め切り(7/10)の確認を行った。②から⑤の手順、実施時期の説明を行った。②は審査結果通知書が揃い次第開始する。⑥に関しては pT3, pT4a, pT4b の診断一致率が上昇した場合は新診断基準での予後分別能検証を行い、診断一致率向上が得られない場合は ELI を軸に据えた局所進展度評価の再構築研究に移行する旨を説明した。

参加者との間で Clinical T 分類との比較の必要性や⑥の内容に関して議論した。

【決定事項】

- ・②の症例提示用 PDF に Clinical T 分類を記載することとした。

3. 腹膜弾性板のアトラス

東北大学で作成した大腸アトラス使用予定症例の結果を報告した。腹壁側では弾性板

が多層化している点に興味深いとの意見があった。腹壁側（後腹膜や膀胱など）の弾性板を超えた浸潤をどのように評価しコンセンサスを形成するかが今後の課題であり、T4b 診断の新たな指標となる可能性について議論された。

【決定事項】

- ・ 部位ごとの弾性板の形態や評価方法について引き続き検討することとした。

4. 次回予定

日時：9 月

内容：Web 会議において①と②の結果を報告する。追って日程調整を行う。

（文責：加藤、小嶋）

